

令和4年度 第1回仙台市環境審議会

議事要旨

日時：令和4年8月2日（火）10：00～11：30

場所：TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール1

I 次第

1 開会

2 委嘱状交付

3 副市長挨拶

4 会長・副会長の選出

5 議事・報告事項

(1) 「杜の都環境プラン」 定量目標の進捗状況（令和3年度実績）について

(2) 令和4年度の主な環境施策について

(3) その他

6 閉会

II 出席委員数

出席 24名

欠席 1名

III 議事要旨

司会	それでは、次第の4 会長・副会長の選出に移る。 仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第2条第1項の規定により、本審議会は会長及び副会長2人を置き、委員の皆さまの互選により定めることとなっている。 まず、会長、副会長について、委員の皆さまから自薦、他薦を含めご提案いただきたい。
齋藤優子委員	「杜の都環境プラン」及び「仙台市地球温暖化対策推進計画」の改定にあたり、両検討部会委員としてご尽力、ご活躍いただくとともに、専門的な知見や豊富な経験をお持ちであることから、会長に風間委員を推薦する。
司会	ただいまの齋藤委員からの推薦について、皆さまいかがか。
各委員	異議なし
司会	風間委員、いかがか。
風間聡委員	お引き受けする。
司会	続いて、副会長について、委員の皆さまから自薦、他薦を含めご提案いただきたい。
風間聡委員	地球温暖化対策検討部会長としても実績のある駒井委員を副会長に推薦したい。また、長年、本審議会委員を務められるとともに、杜の都環境プラン改定

	検討部会委員としてもご尽力いただいた青木委員を副会長に推薦したい。
司会	ただいまの風間委員からの推薦について、皆さまいかがか。
各委員	異議なし
司会	駒井委員、いかがか。
駒井武委員	お引き受けする。
司会	青木委員、いかがか。
青木ユカリ委員	お引き受けする。
司会	それでは、新たにご就任された会長、副会長より一言ご挨拶をいただきたい。
風間聡会長	渡邊前会長から大役を引き継ぐこととなったが、前回改定した「杜の都環境プラン」に基づきつつ、委員の皆さんと知恵を共有しながら、環境行政と一緒に考えていきたい。よろしく願います。
青木ユカリ副会長	微力ではあるが、副会長として努めてまいりたい。よろしく願います。
駒井武副会長	私自身はエネルギーや資源を専門としており、昨今のロシアやウクライナの情勢の影響により、再生可能エネルギーや電気、天然ガスなどエネルギー問題も大きな課題になってくると思うので、ぜひ一緒に考えていきたい。
司会	続いて、次第の5 議事・報告事項に移る。 以降の進行については、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第5条第1項に基づき、風間会長に願います。
議長（風間会長）	初めに、会議の公開、議事録の署名について確認させていただく。 まず会議の公開に関しては、個人のプライバシーに関することなどで非公開の必要がある場合以外は、原則として会議を公開することとしているので、皆さまよろしく願いたい。
各委員	異議なし
議長（風間会長）	次に、議事録に関しては、今までどおり会長と出席委員1名の署名をもって正式な議事録とすることとしてよろしいか。
各委員	異議なし
議長（風間会長）	今回の議事録の署名について、名簿順ということで、青木副会長に願いたいとが、よろしいか。
青木ユカリ副会長	了承した。
議長（風間会長）	それでは、議事・報告事項に入る。 議事・報告事項（1）「杜の都環境プラン」定量目標の進捗状況（令和3年度実績）について、事務局より説明を願います。
事務局（環境企画課長）	（資料1に基づき説明）
議長（風間会長）	ただいまの説明に対し、皆さまより質問や意見を願います。

渡辺博委員	<p>自然共生都市づくりにおける「みどりの総量（緑被率）」について伺う。</p> <p>本市は、広い市域の中でも森林をはじめとしたみどりが多い政令市と認識しているが、住宅を含めた都心部の緑被率については、どのように計上しているか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>緑被率の調査については、5年に一度、航空写真により樹林地や草地等の分布状況を把握する方法で実施している。市街地や郊外部における緑被率の内訳については、ただいま手元に詳細な資料がないため、後日あらためてお知らせさせていただく。</p>
渡辺博委員	<p>近年、地球温暖化の影響により気温の高い日が続く中で、木陰が果たす役割に関心を持っており、定禅寺通や宮城野通も樹木が成長しみどりに溢れている。</p> <p>一方、例えば都市計画道路である元寺小路福室線において、榴岡公園に至るまでは現状みどりが少なく、みどりの回廊づくりの対象となる路線だが、まだ着手されていない。都心の緑被率の向上、木陰の創造は重要であり、都心部の回遊性の向上や快適なウォーカビリティにもつながる。</p> <p>建設局の所管だとは思うが、本市の環境施策全体を総括する環境審議会においても重要なテーマだと考えており、事務局の認識を伺う。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>杜の都環境プランにおけるグリーンインフラをまちづくりに生かす視点から、重要な施策であると認識している。まちのみどりを守り活用していくうえでも、市街地における貴重な緑地の保全や、土地所有者の方ともみどりの価値を共有し、維持管理にご協力をいただけるような施策の展開など、まちのみどりを増やしていくことに市民の皆さまが一丸となって取り組めるような施策を積極的に進めていく必要があると認識している。</p>
渡辺博委員	<p>その認識でけっこうである。一概に緑被率だけで済まさないで、住宅を含めた都心部における施策の在り方について、検討し実践していくことが重要だと私は認識している。</p>
議長（風間会長）	<p>重要なご指摘だと思う。</p>
駒井武副会長	<p>シート4の「①温室効果ガス排出量」について、私自身が地球温暖化対策検討部会で委員を務めてきたため、この排出量の統計値は嬉しくなるとともに、驚いている。2020年実績が基準年度比21.4%減であり、2030年までに35%以上削減は見込まれると思ったが、産業活動や運輸、家庭生活における新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みると、2019年及び2020年は異常値と考えるべきなのか、それともこの推移のとおり削減されていくのか、部門別のデータがあれば、説明をお願いしたい。</p>
事務局（地球温暖化対策推進課長）	<p>新型コロナウイルス感染症の影響については、特に事業活動において、生産量やリモートワークの推進により、電力を中心にエネルギー消費が落ちていることをアクションプログラムの実績等でも把握しており、影響は相当程度受けているものと考えている。そのため経済活動の回復等により、今後上振れする可能性もあるため、楽観視はできないと考えている。</p> <p>家庭部門においては、仙台市特有の要因として、冬季に灯油を使用する傾向があり、特に2020年度は2019年度よりも冬日の日数が多かったため、少し増加</p>

	<p>傾向にあるが、電気、都市ガス等に関しては横ばいであり、全体でもほぼ横ばいとなっている。</p> <p>運輸部門については、バスやタクシーなどの旅客運送業については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者が減少したことで排出量が減少した一方で、貨物運送業は増加しており、全体としては若干の減となった。</p> <p>運輸の家庭部門については、車両台数で推計しているため、台数に大きな変化がなければ、基本的に横ばいとなる。</p>
谷田貝泰子委員	<p>シート6の「④身近な生きものの認識度」について、生き物によって認識度に差があるが、10ページ「⑩環境に関する満足度」をみると、「3. 川や水辺のきれいさ」や、「6. 生きものと触れ合う機会の多さ」の満足度が低いため、生きものと触れ合う機会が少ないと感じた。自然観察会や生きもの観察会、川や水辺での自然体験などの機会づくりができるといいと思った。</p>
議長（風間会長）	<p>「行動する人づくり」にも関係すると思うが、事務局、いかがか。</p>
事務局（環境共生課長）	<p>生きもの大切さや魅力を感じ、それを認識してもらおうという取組を平成29年度から開始しており、昨年度は、カジカガエルや市の鳥カッコウなど本市に関わりの深い生きものに着目した生き物観察会や、市の虫スズムシなどを題材にしたイベントを実施した。</p> <p>また、イベントの開催にあたっては、普段環境に興味のない方にも参加いただけるよう、アートや音楽、歴史など組み合わせるといった工夫を行っており、これからもイベントによる機会創出やウェブなどを活用した情報発信に努めてまいりたい。</p>
五十嵐誠委員 （代理出席： 佐々木交通政策部次長）	<p>「④身近な生きものの認識度」や「⑩環境に関する満足度」、「⑪日常生活における環境配慮行動」について、アンケート調査を実施しているが、前回調査の調査対象者数や回収率はどの程度だったが。</p> <p>また、次回調査については、同程度の調査対象者数を想定しているか。</p>
事務局（環境共生課長）	<p>前回調査は、中学1年生とそのご家族、約3,500人にアンケート調査にご協力をいただいた。数字を持ち合わせていないが、学校のご協力もあり回収率は比較的好かったものと記憶している。</p> <p>次回調査については、前回調査と比較ができるような方向で、詳細を検討してまいりたい。</p>
石川宣子委員	<p>一般消費者の立場からご質問できればと思うが、シート14の「⑪日常生活における環境配慮行動」について、2018年度の前回調査以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、例えば在宅時間の増加など、生活スタイルが大分変わったと思う。また、前回調査の回答では、「自宅に太陽光発電設備等を設置する」や「再エネの比率が高い電力会社から電気を購入する」といった行動の実践割合が低くなっており、初期投資への補助制度などの工夫が必要だと思う。</p> <p>それとともに、「地元産や旬の食材を選んで買う」や「エコラベルがついた商品などを選んで購入する」などの行動に関して、エコラベルをはじめ、商品の表示は多岐に渡り、新たなものも増えている。環境局でも「3Rわかる本」などで周知しているが、消費者に協力いただくうえで、分かりやすい周知が大切</p>

	<p>だと思う。</p>
事務局（地球温暖化対策推進課長）	<p>太陽光発電設置や、再エネ比率の高い電力会社からの電力購入について、本市では、各家庭における脱炭素の推進や、エネルギーの地産地消、災害時の電力確保といった観点から自宅の屋根への太陽光発電の設置を推進している。</p> <p>一定程度の初期費用の確保が可能な方に対しては、共同購入により価格低減を図る新規事業を開始するとともに、初期費用を確保できない方に対しては、初期費用なしで月々の料金の中で太陽光発電設備を導入するサービスを提供する事業者に対する補助を行うことで、利用者の負担軽減を図る新規事業を開始しており、これらの事業を活用しながら推進を図ってまいりたい。</p>
事務局（環境共生課長）	<p>地元の食材を選ぶということは、安くて美味しいだけではなく、地球温暖化対策にもなるというメリットもあることを、本市のブログの中でもご紹介させていただくとともに、E-Action実行委員会においてもグリーン購入を推進する取り組みとして、エコラベルの買物講座なども実施してきた。</p> <p>今年度は、地元の食材を使った講座の実施について、企画・検討しているところであり、引き続き取り組みや情報発信を進めてまいりたい。</p>
山田一裕委員	<p>資源循環都市づくりの各目標について、例えば「1人1日当たりの家庭ごみ排出量」を400g以下にすることを目標としているが、一般の方からすると目標達成による効果を実感しづらい。例えばごみの排出量の削減により、市の財政負担が軽減され、その分が環境事業費に充てられることで、豊かな生活や自然共生社会の構築につながるといった流れを示すことで、取り組みの効果を見える化できると考えるので、手法の1つとして可能であればご検討いただきたい。</p>
事務局（廃棄物事業部長）	<p>各目標について、目標達成による効果を実感できなければ取り組みが進まないというご意見はおっしゃるとおりだと思う。「1人1日当たりの家庭ごみ排出量」については、排出量の削減が最終処分の費用負担や環境負荷低減に繋がるという点が重要である。また、「家庭ごみにおける資源物の割合」については、プラスチックの焼却に伴うCO₂排出の削減が重要である。</p> <p>経済効果や環境負荷低減などの効果について、取り組みを進めていくうえで、丁寧に説明していく必要があることから、ただいまのご意見も踏まえながら、これまで以上に見える化に取り組んでまいりたい。</p>
議長（風間会長）	<p>次に、議題・報告事項（2）の「令和4年度の主な環境施策について」、事務局より、説明をお願いする。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>（資料2に基づき説明）</p>
議長（風間会長）	<p>ただいまの説明に対し、皆さまより質問や意見をお願いする。</p>
島田福男委員	<p>私からは2点お伺いしたい。</p> <p>1点目は、シート18の「(3)生活ごみの分別推進」について、リチウムイオン電池の定日収集が7月から始まったが、近隣にある集積場を見ると、袋に入れずそのまま排出していたり、想定より排出されていなかったりしているので、もう少し広報を徹底する必要があると感じる。</p> <p>2点目は、シート14の「(1)プラスチック資源循環の推進」について、マイ</p>

	<p>バッグが浸透し、レジ袋は大分減ってきたものの、食品トレイが多く排出されている。食品トレイは、包装しているラップに貼っている紙のラベルが剥がせないで、事業者と協議して改善できないか。</p>
事務局（廃棄物企画課長）	<p>1点目のリチウムイオン電池等の定日収集について、事前に各町内会にチラシや啓発用のポスターを送付するなどの周知を行っており、排出方法としては、電池の端子部分を絶縁し、乾電池と同様に透明な袋に入れて排出いただくようお願いしている。リチウムイオン電池による発火事故の防止やリサイクルの推進のため、引き続き周知に努めてまいりたい。</p> <p>2点目のプラスチックのリサイクルについて、食品トレイは本市のプラスチック製容器包装の定日収集のほか、主にスーパーの店頭回収で食品トレイとしてリサイクルされており、分別にご協力をお願いしたい。また、ラップに貼っているラベルについては、そのままプラスチック製容器包装の収集袋に入れていただければ、リサイクル施設で適切に処理するため、剥がさないで排出可能であり、引き続き、市民の皆さまに分かりやすい周知広報に努めてまいりたい。</p>
山田一裕委員	<p>シート24の「(2) 多様な主体と連携した人材の育成」について、私自身もNPOの運営に関わっているが、携わるスタッフの高齢化が進むとともに、NPOを運営する体力も低下しているように感じている。</p> <p>20代から40代の働き盛り、あるいは子育て世代の方々が積極的に環境活動や、運営に関わることが重要であるため、従業員がボランティア休暇の取得や、環境活動への積極的な参加を行える雰囲気づくり、職場づくりを事業者に促すよう、計画にも盛り込んでいただけるとよい。</p>
事務局（環境共生課長）	<p>若い方との関わりについては、シート24に記載した「杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）」においても議論がされ、18歳から30代の若い世代を対象とした「せんだい環境ユースカレッジ」を実施している。昨年の卒業生には、同推進会議の委員として活動を続けている方もいる。</p> <p>また、「未来プロジェクトin仙台」として、環境社会実験の企画を募集し、FEEL Sendaiの委託事業として採用する取り組みを行ってきたが、今年度から委員のご意見も踏まえ、事業者も参加できるようになった。今年度は、せんだいE企業だよりなどで広報したものの、参加者がいなかったが、若い社会人の方々にも参加いただけるよう、取り組みを進めてまいりたい。</p>
高山秀樹委員	<p>私は商工会議所に所属しており、これまでも事業者に関連する事項については、連携しながら周知広報に取り組んできた。シート17の「(2) 食品ロス削減の推進」のとおり、新規事業として小売店と市民とのマッチングサービスを活用した取り組みを実施するが、市民の方々はもとより、多くの小売店にご理解と参加への協力をいただくことも大事であり、連携・協力できる場所があれば、一緒に取り組んでまいりたい。小売店にとっても、参加することでSDGsの取り組みに参画できるという点でもメリットになると思う。</p>
大越和加委員	<p>私からは2点お伺いさせていただきたい。</p> <p>1点目は、シート8の「(6) 次世代エネルギー創出促進」について、藻類を活用したバイオマスエネルギーの創出に向けた実証実験・研究開発を行っているが、私としては、実用化は難しいのではないかと認識しており、現況をお知</p>

	<p>らせいただきたい。</p> <p>2点目は、5つの分野別の環境施策のうち、自然共生都市づくりについて、資料2に掲載されている施策が、他の分野に比べて項目が少なく、新規施策も表れていないように感じる。「杜の都環境プラン」の定量目標にも関わってくるが、生きものに関連するデータは収集や評価が難しいものの、大切な施策の一つであるため、引き続き力を入れていただきたい。</p>
事務局（地球温暖化対策推進課長）	<p>1点目の藻類を活用したバイオマスエネルギーの取り組みについて、現況をご説明する。</p> <p>本プロジェクトについては、民間企業や大学、みやぎ生協など6者体制で取り組みを進めており、南蒲生浄化センターの実験施設における培養実験などをこれまで行っている。</p> <p>成果としては、藻類由来のオイルや作物の育成を促進するバイオスティミュラントの抽出に向けて、比較的小規模な培養実験を行ってきたが、より大きな設備を用意し、数年かけて実用化に向けて可能性を検討していく。</p>
事務局（環境共生課長）	<p>2点目の自然共生都市づくりの施策については、今回資料2に掲載させていただいたもののほか、環境アセスメント制度をはじめとする関係法令の運用や、ケヤキ並木に代表される街路樹等のグリーンインフラを生かしたまちづくりなど、他局にまたがるような施策もあり、今回の資料では環境局の施策を中心に説明させていただいたところ。実際に施策を進めていくうえで、みどりや農業、地域づくり、教育、都市計画など、自然共生は様々な分野と関わっていることから、関係部局とも連携し、情報交換を行いながら進めてまいりたい。</p>
齋藤優子委員	<p>「杜の都環境プラン」は行動する人づくりを掲げている点が、他都市と比べてた特色となっており、委員の皆さんのご意見を伺っていた中でも、その底上げが重要だと認識した。そのうえで2点意見を述べさせていただく。</p> <p>1点目は、広報について、インスタグラムなどのアカウントを新規開設したが、こうした媒体を自分の生活に取り込むまでがハードルが高いと思っている。私も仙台市のLINE公式アカウントを登録しており、7月1日からのリチウムイオン電池の収集についても、収集開始にあわせて案内が来た。そこに掲載されたリンクにアクセスすれば、丁寧な説明にたどり着けるものの、そこに至るまでがハードルが高いと思っており、そうしたものを上手に取り入れられるような仕掛けづくりをしていただければと思う。</p> <p>2点目は、資源循環について、例えば家庭と会社、家庭と学校で、日本の法制度上、分別の仕方が異なることは存じ上げているが、そこが一貫しなければなかなか環境価値は育たないと思う。できる範囲にはなると思うが、子供たちや若年層の方々が一貫して資源循環に興味を持てるよう、例えば事業者へのインセンティブの付与など、仕掛けづくりをしていただければと思う。</p>
事務局（環境共生課長）	<p>1点目の行動する人づくりについては、「杜の都環境プラン」においても、人づくりのポイントとして、一人一人が環境にまず関心を持って、そして理解を深めて、そして行動実践する、このステップが重要だと示している。この関心を持つためには、情報に触れる機会を増やすことが大切であり、近年ユーザーが急激に増加して大きな影響力、情報波及効果を持つインスタグラムのアカウ</p>

	<p>ントを今回新たに開設した。</p> <p>こちらは、環境に興味のない方も関心を持つきっかけになっていただけるよう、まずは目を引きやすい表現、そしてさらに知りたい方にはホームページを案内して詳細な情報をお伝えするようしており、例えば日常的な省エネ行動や、地球温暖化対策推進課で新たに開始した共同購入事業等をご紹介している。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、その先の行動につながるような分かりやすい情報発信に今後とも努めてまいります。</p>
議長（風間会長）	先ほどの議事・報告事項（１）を含め、全体を通じてコメントなどあるか。
安齋由貴子委員	<p>私は健康づくりを専門にしているが、そこでも一人一人が健康的な生活をするために、それぞれの身近な目標を立てて行動している。環境分野においても、資料１のシート14で示している「日常生活における環境配慮行動」を周知し、例えばごみの削減や、自家用車の使用を控えるといった環境配慮行動が、目標達成にどのように寄与するかを理解していただきながら、各家庭や個人で取り組める目標を立てて実行することが大切だと思う。</p> <p>また、インセンティブも大切だと考えており、最近スーパーで段ボールを持ち込むことでポイントが貯まる仕組みがあり、私自身も使っているが、対象となる方の特徴を捉えて、PRしていくと効果的だと思う。</p>
事務局（環境共生課長）	<p>具体的に環境配慮行動を実践していただくには、そのための動機や行動を促すことが大切であり、気軽に真似したくなる環境配慮行動を発掘し、発信していくことが重要だと考えている。本日チラシを配布している『私の杜の都スタイル』Instagramキャンペーンにおいても、気軽に取り組めるようなエコな行動を投稿いただき、それを皆さんに広めていければと考えている。</p> <p>このキャンペーンでは、E-Action実行委員会の委員にもご協力をいただきながら商品を用意させていただいており、それも1つの動機づけになると思う。また、省エネ行動の周知においては、電気代の削減や熱中症対策など、市民の皆さまのメリットを添え動機づけや行動促進に繋がるよう工夫しているところであるが、行動を促すというのはなかなか難しいため、ご助言などをいただきながら取り組みを進めてまいります。</p>
谷田貝泰子委員	他自治体で給水スポットを設置し、マイボトルに水を入れることでペットボトルを削減する実証実験を行っている事例を聞いたことがあるが、仙台市でも実施できるものか。
事務局（家庭ごみ減量課長）	<p>マイボトルを持ち歩くという環境配慮行動を市民の方々に促すことは、ペットボトルなどプラスチック容器の削減につながることから、昨年度はマイボトルキャンペーンを実施した。こちらは、コンビニやコーヒーショップにマイボトルを持参いただいた際には割引を適用することで、マイボトルの促進を図る取り組みである。今年度も引き続き、マイボトルの促進にご協力いただける事業者とともに、マイボトルや粉末飲料の活用等により、気軽にボトルを使って水分補給をできる環境をPRしてまいります。</p> <p>給水スポットについては、ただいま申し上げた既存の店舗のご協力を基本に考えているが、それ以外にも、熱中症対策と、ボトルやプラスチック容器の削</p>

	減を同時に進められる取り組みを引き続き検討してまいりたい。
議長（風間会長）	<p>水道水が飲めるということは、仙台市の魅力の一つでもあり、一部の公園では水を飲めるような水道施設が用意されているので、水道局とも連携しながら、展開していければよい。</p> <p>それでは、この件については以上とする。</p> <p>最後に、議事・報告事項（3）その他だが、本日の審議会を通してのご質問やご意見などはあるか。</p>
各委員	<p>特になし</p> <p>それでは、議事・報告事項については以上とする。</p> <p>事務局から連絡事項等はあるか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>先程、渡辺委員からご質問のあった緑被率の内訳について、詳細を確認できたため、申し上げる。</p> <p>本市全域の面積78,635haのうち、市街化区域の面積が18,006haであり、そのうち緑被面積は4,737.19haである。本市全域に対する市街化区域の緑地面積で換算すると緑被率は6%となり、市街化区域に対する緑被率では26.3%となる。このほか市街化調整区域や都市計画区域外の緑地面積を総計すると、先程申し上げた市域全体の緑被率である78.4%となる。</p>
事務局	今後の審議会の日程について、詳細が決まり次第、改めてご案内する。
議長（風間会長）	<p>本日、様々な質問があったが、実績や取り組みの詳細については、毎年度実績報告書を作成し、ホームページで公表しているため、ぜひ委員の皆さまには1度目を通していただいて、お気づきの点があったら次回以降発言していただきたい。</p> <p>それでは、以上で本日の環境審議会の議事を終了する。審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。</p>

令和4年10月19日

仙台市環境審議会会長

氏名

風間 聡

仙台市環境審議会委員

氏名

青木 2かり